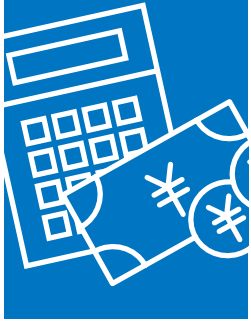


令和4年度 志木市の決算報告



令和4年度の決算が、令和5年志木市議会9月定例会で認定されました。
私たちが納めた税金がどのように使われ、また、市の財政がどのような状況にあるのかをお知らせします。

問合せ／財政課 ☎048(473)1115

※1千万円未満を四捨五入しています。そのため合計があわない場合があります。

一般会計

令和4年度の一般会計の決算額は、歳入が330億8千万円、歳出が311億2千万円になり、差引額19億6千万円となりました。

ここから、翌年度の事業に使うために繰り越すべき財源（約4千万円）を差し引いた額の19億3千万円（黒字額）が実質収支額となっており、前年度に比べると4億2千万円の減少となりました。この実質収支額は、令和5年度の歳入に繰り越されます。

また、市の貯金である財政調整基金の残高は、28億5千万円となっており、前年度に比べると3億1千万円の減少となりました。

市民1人あたりでは…

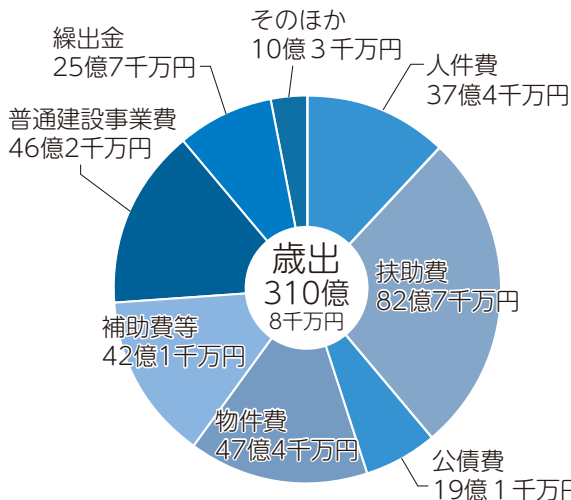
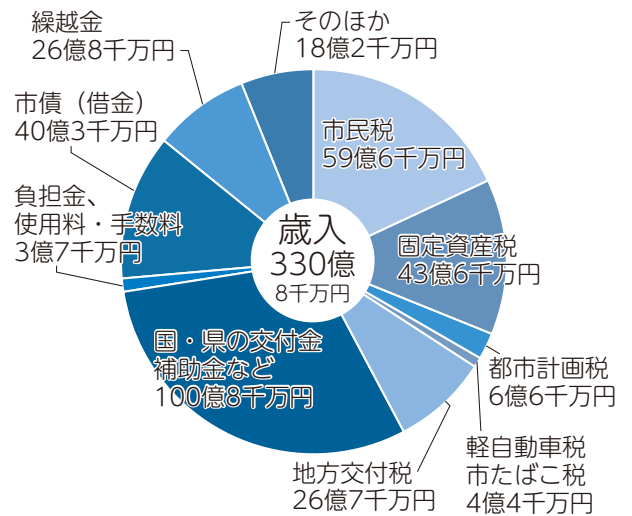
市税の負担……………15万円
市民サービスに使われたお金…41万円

※市税の負担は、市税収入額を人口76,463人（令和5年3月31日現在）で除した額
※市民サービスに使われたお金は、一般会計の歳出額を市民一人あたりに換算した額

歳入

歳入の総額は、前年度に比べて、4億1千万円の減少となりました。

この減少の主な要因としては、繰越金が9億4千万円の増となったほか、財政調整基金繰入金や国民健康保険特別会計繰入金などの繰入金が4億8千万円の増となったものの、子育て世帯への臨時特別給付金給付事業費補助金の減などによる国庫支出金が11億4千万円の減となったほか、臨時財政対策債や庁舎建設事業債などの市債が10億5千万円の減となったことによるものです。



歳出

歳出の総額は、前年度に比べて、3億円の増加となりました。

この増加の主な要因としては、子育て世帯への臨時特別給付金事業費や住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業費の減などにより扶助費が10億8千万円の減となったものの、民間保育園等運営改善費補助金や水道基本料金減免事業費の増などにより補助費等が6億1千万円の増となったほか、国民健康保険特別会計繰出金をはじめとした特別会計に対する繰出金が2億7千万円の増となったことによるものです。

※地方財政状況調査のルールにより整理しているため、決算額があわない場合があります。

特別会計・企業会計

特別会計は、国民健康保険や介護保険など市が特定の事業を行う場合に一般会計と区別して設置し、その特定の歳入をもって特定の歳出に充てるものです。

企業会計は、独立採算制を原則とする企業的色彩の強い事業を行う場合に法律や条例に基づいて設置するもので、本市では水道事業と下水道事業が該当します。

市債残高の推移と経常収支比率

市債(市の借金)残高は、庁舎建設事業などの借入額が大きかったため、前年度より24億5千万円の増となりました。今後も、将来に役立つ財産形成のために、財政負担を考慮しながら計画的な借入と返済をしていきます。

経常収支比率は、定期的な収入(特定財源以外)の何割が、定期的な支出に使われたかを表します。令和4年度は前年度比で3.9ポイント増加しました。

この比率が低いほど、市の独自事業に使えるお金が多くなり、この比率が90%を超えると、財政の硬直化が進んだ状態と考えられます。

財政状況は健全

健全化判断比率の基準では、市の財政状況は健全を維持しています。

しかし、これらの数値には、市民会館及び市民体育館をはじめとした耐震性能が不足する公共施設の更新経費や、借地している学校用地の購入費などは含まれていません。こうしたことにも注意しながら引き続き、健全な財政運営を進めていく必要があります。

●令和4年度特別会計

会計名	歳入額(うち一般会計繰入金)	歳出額
国民健康保険	71億8千万円(6億7千万円)	68億3千万円
志木駅東口地下駐車場事業	4千万円(-)	4千万円
介護保険	53億4千万円(8億3千万円)	50億6千万円
後期高齢者医療	11億2千万円(1億9千万円)	11億1千万円

●令和4年度企業会計

水道事業

	収入	支出	当年度純利益
収益的収入及び支出(税抜)	13億6千万円	12億3千万円	1億2千万円
資本的収入及び支出(税込)	9億円	14億2千万円	不足額 5億2千万円

下水道事業

	収入	支出	当年度純利益
収益的収入及び支出(税抜)	18億4千万円	16億4千万円	2億1千万円
資本的収入及び支出(税込)	4億9千万円	7億8千万円	不足額 3億円

※資本的収入及び支出において不足する額については、損益勘定留保資金などで補填しました。
※1千万円未満を四捨五入しています。そのため計算があわない場合があります。

●市債残高の推移

会計名	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
一般会計	178億1千万円	211億8千万円	233億5千万円
志木駅東口地下駐車場事業	3千万円	—	—
水道事業	20億4千万円	20億7千万円	25億9千万円
下水道事業	38億9千万円	35億7千万円	33億2千万円
市全体	237億6千万円	268億1千万円	292億6千万円

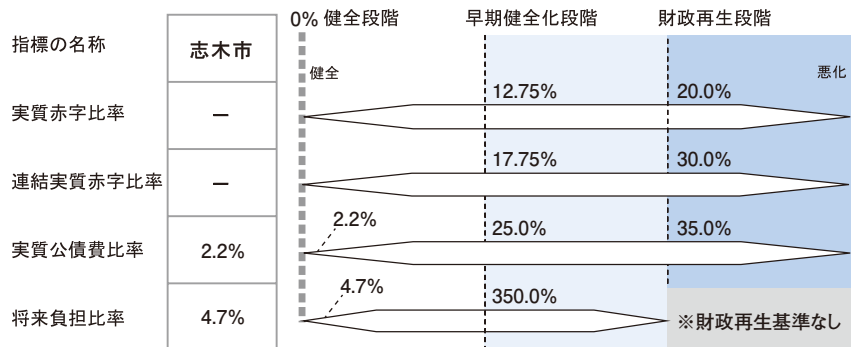
※1千万円未満を四捨五入しています。そのため計算があわない場合があります。

市民1人あたりでは…
借金残高……38万円(前年度比+3万円)

●経常収支比率

令和3年度 90.8% → 令和4年度 94.7%

●健全化判断比率



※「実質赤字比率」及び「連結実質赤字比率」は、実質赤字額がありませんので、数値は表示されません。

●資金不足比率

会計名	志木市	経営健全化基準
水道事業	—	20.0%
下水道事業	—	

※資金不足額がないため、「—」と表示されます。



市ホームページでも、市の財政状況を公開しています。